



松陵健児

発行日：平成21年9月1日
発行人：能代高校東京同窓会
責任者：太田勝治
編集：会報制作委員会
印刷：大森太田印刷(有)



1974年、樽子山校舎にて 撮影／袴田邦夫(第45期)

改題と新しい題字について

当会報の題名は、従来の「奮え松陵、我が健児」に替え、今号から「松陵健児」と致します。これに合せ、題字も一新致しました。新しい題字は、能代市仁井田の曹洞宗倫勝寺住職山田晃一氏(四十二期)の手になるもの。同氏は書家山田櫻庵としての顔もお持ちで、県内の書家をつくる「六葉会」のメンバーとしてしばしば展覧会を催されています。その御父君山田頭一先生(十一期)は、永年母校で国語科の教鞭を執られる傍ら(S二十四～四十一)、黙窓と号されて、やはり書の道に歩まれた方。現在高埴校舎で毎朝生徒の登校を見守る校名の門標や体育館に掲げられた校歌詞章の額、また樽子山校舎の体育館正面に校歌を大書して貼ってあった額ぶちのない紙は、みな先生の手蹟と伺って居ります。会報誌委員会では題字一新に際し、先生のゆかりを慕って御息・晃一氏へ特に懇望、幸い快諾が得られ、同氏には「松陵健児」四字を、御覧の通り墨痕も鮮やかに御揮毫下さいました。ここに記して深甚なる謝意を表わすもので御座います。

(第六十七期 小野立)

平成21年度 能代高校東京同窓会総会のご案内

特別企画 松尾一彦さん(第43期)、宮城伸一郎さん(第44期)トーク出演決定

【日時】平成21年10月18日(日)

【年会費】3,000円(1世帯)

受付 12:00～

*お振込、または当日受付にて受領します。

総会 12:20～

【懇親会費】男性7,000円 女性6,000円

特別企画 13:00～

*割引制度や特例があります(10ページ参照)

懇親会 13:40～16:00

【出欠】同封のがきは9月26日(土)まで投函く

【会場】アルカディア市ヶ谷 3階 富士の間

ださい。東京同窓会ホームページでも受け付けます。

詳細は10ページに掲載しています。東京同窓会ホームページ <http://shoryokenhi.web.fc2.com/>

10/18 総会・懇親会で お会いしましょう

能代高校東京同窓会会長 太田 勝治

同窓生の皆さん、お元気ですか！月日のたつのが本当に早く感じられるこの頃です。そう、会長就任から間もなく4年目を迎えます。

さて、能代高校東京同窓会の活動はいろいろありますが、その中で総会・懇親会に一人でも多くの同窓生の参加者を増やし、同窓生同士の交流をもっともっと盛んにして、懇親会を大いに盛り上げたいというの大きな目標です。これは他校の同窓会も同じでしょう。

特に能代高校東京同窓会ではここ数年間、同窓会内の「同好会」や「ホームページ」や「ブログ」を通じて、積極的に参加の呼びかけをしています。その努力のおかげで、総会・懇親会への参加者も若手を中心に少しずつ増えてきています。初参加者からは「久しぶりに、同期生や同窓生と会えて、いろいろ話が出来てうれしかった。元気が出てきた。来年もぜひ参加したい」という、嬉しいコメントなどを多くいただいています。そうです！懇親会に参加して損することはありません。プラスになることの方がとっっても多いのです！

母校で、同郷で、多感な青春時代を一緒に過ごした同窓生の皆さん、思い出を語りながら、さらに未来への夢や希望を大きく開いてくれる人間性が豊かで、人情味あふれる多くの先輩や後輩の同窓生と交流してください。100年に一度の大不況といわれ、政治的にも激動が予想される昨今ですが、心のオアシスである東京同窓会での気さくな交流が、いろいろの問題解決の糸口となる可能性はかなり多いと思います。これからの人生にプラスになることがたくさんあるはずですよ。

「今年も参加して本当に良かった！」と参加者全員が十分楽しめるように、ただいま担当幹事一同が力を合わせて10月18日の総会・懇親会へ向けての大歓迎の準備を進めています。

10月18日の総会・懇親会でぜひお会いしましょう、そして大いに語り合いましょう。



東京同窓会の皆様へ

能代高校同窓会会長 田中 仁純

東京同窓会の皆様にはご健勝にてお越しのこととお慶び申し上げます。「100年に一度」と言われる世界的金融恐慌の最中にあり、会員の皆様にも大なり小なり影響を受けておられるのではと心配しているところです。



この原稿を書いております6月中頃は梅雨前線の到来を告げている中で、晴天が続いており、田植えを終えた田圃は苗の育ちも良く青々と広がり、木々の葉も濃さを増して、一年で最も快適な季節を迎えております。

昨年9月19日は、本部同窓会がプラザ都で行われました。定会場であった「金勇」が閉業して、能代市に寄贈されたので、新年祝賀会を「平安閣」として、両会場で開催しております。

1月23日の新年祝賀会は38期生の袴田忠夫氏(防衛大学・海上幕僚第一術科校長、三菱電気株式会社顧問)が「日本人としての誇りー日本近代史の一考察ー」と題して講演下さいました。直前に元幕僚長の田母神氏の更迭問題もあり、やりずらそうでしたが、歴史観の確かな同窓会員のものと、順調に終了することができました。

また、日本中をわかせたワールド・ベースボール・クラシックで2連覇を達成したサムライ・ジャパンのピッチング・コーチの山田久志氏(37期)が地元で「侍ジャパン優勝への道のり」と題して講演、「日の丸を付けて試合に臨んだのは初めて、胸に手を当てて君が代を聴いた時は武者震いがした。改めて日本の皆さんに感謝している。自分なりに良い仕事が出来た」と、投手指名から好調・不調のあるなかでのローテーションの苦労などを語っていました。

今後講師については人材の多い東京同窓会の力を借りたいと思っています。文武両道を校是とし、校訓「至誠立行」のもと同窓会は限りなく意気盛んであります。

東京同窓会の益々ご発展と皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

夢を語れる学校をめざして

能代高等学校校長 山本 達行 第39期

東京同窓会の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。



6月の末ともなれば、北国能代も一段と蒸し暑さが増し、夜風に、燃える夏の気配を感じるようになってきました。まもなく市内のあちこちから、笛や太鼓の練習する音が聞こえ始めれば、能代の街は一気に祭りの熱気に包まれます。今は、その前夜。明日のエネルギーを溜め込むかのように、静かに時間が流れています。そしてこの時期、能代高校でもまた、7月初旬の学校祭に向けて、甲子園に向けて、明石に向けて、静かに、そして入念な準備とエネルギー充填の時間が流れています。

今年度の部活動は、口惜しい敗北がいくつか見られ、6月末現在でインターハイ出場者が体操部2名、空手部1名の計3名、東北大会出場者が柔道部3名、空手部1名、陸上部1名の計5名となりました。残念ながら、体操部の部員が2名となり、今年度の団体出場は出来ませんでした。また、昨年のインターハイ出場者数が5名であったことを考えれば、やや数を落としています。

しかし、軟式野球部に勢いが生まれており、全県大会準優勝、春期東北大会では、名門羽黒高校(山形)に勝ち、準決勝で今回優勝した専修大学北上高校(岩手)に逆転負けをしてしまいました。終始、押し気味に試合をしていただけに残念でしたが、ベスト4に入る活躍をしています。また、硬式野球部も春期県北大会で優勝し、優勝候補として臨んだ全県大会で、今回準優勝した秋田中央高校と対戦、よもやの敗北を喫してしまいました。飛び抜けたチームがなく、戦国時代と称される秋田県の硬式野球ですが、勝つことの難しさと、精神面の課題を感じさせられました。戦力的に劣るものではなく、「心」さえ出来れば、十分に勝ち上がっていく力を持ったチームと考えています。7月11日から始まる秋田県大会での両野球部の活躍と、全国大会出場の夢の実現を大いに期待しています。

文化部の活躍は今年も健在です。すでに、美術部、無線部、放送部が全国コンクールへの出場を決めています。特に放送部は、3部門に10名の生徒を送り出すことになり、地道な活動を積み上げてきた3年生の力が輝いていました。また、弁論部も7月11日の東北大会突破をめざし頑張っています。是非とも、全国の舞台で名だたる常連校と鎗を削る戦

いを繰り広げてもらいたいものです。

さて、平成20年度卒業生の進学実績は、過去最高であった平成19年度に比べてやや低下しました。国公立大進学者数が97名(合格者数107名)と昨年比で18名の減となり、医学部医学科への合格者はいませんでした。4年制大学進学者は176名で、全卒業者に対する割合で77.9%にあたり、昨年比で22名、6.7%の減少となっています。増加したのは、医療系専修学校進学者と就職(公務員)の数です。これ自体は、本人の希望に沿うものであり、その希望が本心から出ているのであれば問題はありませぬ。しかし実際は、大学を卒業しても就職できる保証はなく、就職しやすい分野に早く決めたいという心理が働いているように思います。また、保護者にも余裕がなくなっているように見えます。再挑戦は、途方もないことのように捉えられているのが現実です。

しかしながら、本校の目指すものは、ウィル・プロジェクトに示された「夢と志をはぐくむ学校」であり、「可能性に挑戦する気概を持った生徒」の育成です。困難な時代であるからこそ、生き抜く力につながる「本当の学力」を身につけさせ、自分の人生と、社会の未来を切り開く力を持った生徒を育てていきたいと思っています。様々な困難を吹き飛ばし、未来へのビジョンを語り、共に汗することの価値を感じさせる人材が、この能代高校から出てくることを夢に見ながら、これからも様々な取り組みを展開していきます。

この能代高校で、素晴らしい素材に囲まれ、磨かれ輝いていく生徒を目にできること、そして、「全国」や「未来」の夢を語れる学校で働けることは、同窓生として実に幸せなことであると実感する毎日です。期待に応えようとする生徒の頑張りに感謝しています。

最後になりましたが、会員の皆様のご健康をお祈り申し上げるとともに、能代高校への末永いご支援をお願いします。



**** 同窓生対談 ****

小野喬さん + 小林肇さん

「常にアイデアを出して、努力することが大切」

ビッグ対談実現！「鬼に金棒、小野に鉄棒」と言われた体操のオリンピック・メダリスト小野喬さん（第20期）と、国際的に事業を展開する実業家であり、東京同窓会の会長もつとめた小林肇さん（第19期）に、能代中学（旧制）時代のことから現在の故郷との関わりまでを語っていただきました。

●勉強より勤労の時代

小野 小学校3年か4年の頃、能代中学の体操部が明治神宮大会（現在の国民体育大会）で優勝したんです。その旧制の中学生が市民運動会で模範演技をしてくれて、それで体操に魅せられたわけです。大車輪をやったり、宙返りしたりするのを見て、これはやってみたい

と思って、第一小学校の砂場の鉄棒にぶらさがったりしてね。やろうたってできないけど、土手の上から思い切って後ろにひっくり返ったりしているうちに、担任の先生が指導してくれた。バスケットボールで明治神宮大会に出た先生だったんですよ。倒立は自分たちで支え合って、鉄棒は蹴上がりできるように、一所懸命やったんです。

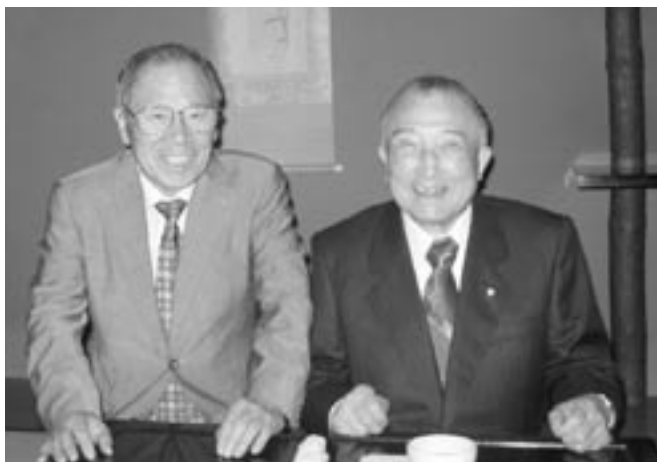
小林 その当時、能代ではみんな小学校の頃からけっこう体操に興味を持っておったよ。

小野 野球が盛んな町ではみんな少年野球をやるでしょ。それと同じように、体操が全国制覇した能代では、小学校はどこも鉄棒があったし、みんなそこで遊んだものだね。

小林 それはぜひぶん能代の教育に寄与したと思うんですよ。

小野 ところが戦争が激しくなって、5年～6年生の頃は草むしりに行ったり、飛行場に行ったり、防空壕を作ったりしました。

小林 戦争中は小学生もあちこち勤労奉仕に引っ張りまわされたね。私が能代中学に入ったときは、学校へ行くのにゲートルを巻くんだ。鋤を持って学校



農園を耕して、近辺の農家へ手伝いに行く（食糧確保のため）。それから東雲飛行場の整備係がけっこう長かった。終戦近くなってきたときには敵機が飛んでくる。狙い撃ちされるんで、飛行場がどこにあるかわからないようにカモフラージュしな

ければならない。敵機の来る時間がだいたい決まっているので、その頃になると滑走路に草を敷くの。その代わり松林のほうを切って、そこへ石灰を巻いて、滑走路のように見せる。松の木を切った丸太を組み合わせ、飛行機（の形）を作るんだよ。そこを射撃させるわけ。そこの飛行場は特殊で、だいたい戦地に出る人が、最後に仕上げで来るところなんです。いわば特攻隊ですね。そこの酒保（食堂）で、明日は発つという人の送別会をやると、私たちまで特別に参加させてもらって、帰りにタバコを1カートンもらえたんです。それを寮にしまっておいて、学校へ戻るときに持っていくわけ。だれが最初に欲しがるかという先生なんだよね。私は吸わなかったから、先生に1箱、あとは仲間に1本ずつあげる。だからみんな、帰ってくるのを待っていてくれるの（笑）。

小野 あの頃は油がなくなって、松根油（しょうこんゆ）もだいぶ作つたんじゃないですか。松の根っこから油が出るから、それをガソリンの代わりに使う。その作業をしたはずですよ。

小林 作業した。学校でなにやってたの？（笑）っ

てことだよね。

小野 勉強なんてとてもできなかった。

小林 戦争が激しくなると学校でなにが反撃されるという、英語なんですよ。敵国の言葉だと(笑)。気の毒なのは英語の先生ですよ。肩身を狭くして。戦争中の学校というのは、軍事教練までやっておったから、非常に厳しかったでしょ。

小野 軍事教官が来てね。1年から必修だった。

小林 それから、十六里強行軍(十里強歩の前身)があって、山中をまわったり、米代川を渡ったり、速い人にはね、東雲羊羹を1本ずつくれたの。1本もらえるのは100人ぐらいで、あとは小さく切った羊羹をもらう。私は1年生でいちばん速くて、1本もらって帰りました。そういうことで精神的にも肉体的にも鍛えられた。苦しいけども、そういうときの思い出は今になると楽しいんですよ。

小野 私は強歩はやらなかったんですよ。1年生のときは(実施が)なかったんです。2年生以降は体操の試合にぶつかって、やらなくていいと言われて。経験しておいたほうがよかった。

●工夫した手作りの器具

小林 昭和20年8月15日のあとが本当に大変だったね。疎開してきた子どもたちが我々の学校にも入ってくるでしょ。地元の生徒はだいたい弁当を持ってきて食べるけど、疎開してきた人たちは弁当がない。戦後に配給制度がなくなって、みんなに食糧がまわらなくなった。

小野 終戦は私が中学1年のときで、本格的に体操をやったのは2年からです。伝統ある能代中学の体操競技部に入ったのはいいけど、ものすごく厳しいトレーニングが始まった。休むのは元旦ぐらいです。体育館の窓ガラスがなくて板張りで、その板も破けて、冬は雪が入って床が真っ白になった。

小林 私が2年の2月15日(昭和19年)、学校が火事で焼けたのね。



小野 そのあと、市内の空き校舎の跡に入って。

小林 そこに行ったら、ガラスが一枚も入ってない。教室にも雪が入ってくる。

小野 体育館はストーブもないし、雪を掃いてからマットを敷いて、寒いので相撲をとったりして体を温めてからマット運動をやった。鉄棒は用務員室の炭火で温めてもらって、芯がまた冷えるから、前回りして温めながら大車輪の練習をしました。それでもがんばって、大阪で行なわれた第1回国民体育大会で全国制覇した。器具のなかったつり輪は、鍛冶屋さんで「わっぱ」を作ってもらった。金だと痛いのでガムテープみたいなものを巻いて、それを天井からぶらさげて、つり輪をやったんですよ。平行棒を作るのは大変だから、女学校に段違い平行棒があったので、借りて練習した。朝早く生徒が来る前に女学校に行って。まだ男女共学でもないし、恥ずかしくてね(笑)。そのうち大工さんに平行棒を作ってもらった。鞍馬は丸太ん棒で、それだけだと痛いから、跳び箱の革をはいで張っただけ。その鞍馬は、最近、校長先生が学校の玄関に展示してくれたそうですよ。鞍馬、つり輪、平行棒は戦後にできた種目で、その前は鉄棒と跳び箱、マットの3種目だったんですね。私が(新制)高校3年のときから6種目になった。その年に私が、第1回国民体育大会で個人総合(そのときは3種目)で優勝した鍋谷(鉄巳)先輩に続いて、6種目での初優勝をしました。

小林 すごかったよ。番さんはめきめき腕を上げて、いつも代表で大会へ行かれるんです。壮行会で、選手を送る言葉はよく私がやらされた(笑)。

小野 応援団長みたいなものですね。

小林 私ら1~2年生頃には弁論部というはっきりした部ではなかったけど、県内の弁論大会に出るのは、我々が初めてだったのね。時間があれば必ず応援歌の練習したもんです。

小野 中学4年生のとき第2回国民体育大会で、個人総合で優勝(3種目)。その次の福岡大会のときは、開会式に行く途中の列車が混んで、列車のデッキに座っていたら、左足にもすごいショックを受けて軽く飛ばされた。落ちれば一貫の終わりだった。手すりにつかまってたから助かったんだけど、その大会には出られなかったんです。秋田は優勝候補だったけれども、地元福岡に負けて2位だった。高校3年のときやっと快復して、国体に出られて、優勝したんです(前述)。監督の中村史郎先生は厳しさもあったけど、優しくて面倒見がいい。ずっと見ていて、ポイントだけパッと言ってくれる。選手を育てる目を持っている先生だった。そのあと



小野喬(おの たかし)
1931年(昭和6年)7月、能代市大町出身。東京教育大学、慶応義塾大学卒。1952年よりオリンピックの体操競技に4大会連続出場(ヘルシンキ、メルボルン、ローマ、東京)、合計13ものメダルを獲得。メルボルン五輪では鉄棒で日本体操界に初の金メダルをもたらす。現在、財団法人日本スポーツクラブ協会名誉顧問。
<http://onotakashi.jp/>

もずっと能代の体操は全国大会で優勝してますからね。(註:昭和23年に学制改革があり、小野さんは中学4年のあとに高校2年に編入。)

小林 なんでいったって、能代高校を有名にしたのは体操なんですよ。

小野 今の能代工業のバスケットボールみたいに有名だったんですね。

●技を開発して、五輪で金メダル

小林 その後オリンピックで、国際的にも日本を有名にしたのは、喬さんがたですよ。昔はオリンピックなんてよくわからなかったけども(笑)。

小野 私自身だってオリンピック選手になれるとは思わなかったものね。2年先輩の鍋谷さんが先にオリンピック候補選手になったんです。私も東京へ出てきて、続いて候補になった。鍋谷さんと私が1952年のヘルシンキ・オリンピックに出たときは、日本は外貨がなくて、選手を派遣するお金がなかったんですよ。8人まで行けるところ3人カットされて、5人の選手しか行けなかったんです。ヘルシンキへ行くあいだ、飛行機の中で熱が出てね。昔のプロペラ機で、羽田から沖縄、台北、バンコク、中東の国々を通して、ストックホルムに着いてすぐ救急車で病院に運ばれたんです。急性蓄膿症だった。腫れたんだけど、応急処置して。ストックホルムで1週間ぐらい練習するはずでいたのにできなくて、「小野がもし試合に出られなかったらどうしたらいいか」と、監督が悩んでね。4人だと団体戦に出られないわけ。幸いにして、ヘルシンキに入った頃には腫れも引いて、鼻に綿を詰めながら演技できた。日本は初めて団体総合で5位に入賞して、その体操の歴史に残る5人の選手のなかに能代の同窓生が二人いたんですね。

小林 喬さんはオリンピックに4回も出て、金メダルを取ってくるんだからねえ。大変なことですよ。

小野 鉄棒のひねり飛び越しという新しい技を自分で開発して、メルボルンのオリンピックで使って、それが成功して金メダルにつながったんです。ひねり飛び越しのヒントになったのは、ヘルシンキのときに見たドイツの選手の技と、日本の深井一三選手がやっていた技。その二つを組み合わせると、一挙にひねって飛び越える技なんですよ。それでひねり飛び越しという名前がついた。やっぱりアイデアというのは、商売でも非常に重要ですよ。

小林 うん、まさしく。だけど、アイデアだけじゃいかん。努力がすごいよ。

小野 ひねり飛び越しの完成には3ヵ月もかかったと思う。何回やっても落下するんですよ。当時としては本当に難しい技だったんです。今の選手は何でもポッとやっちゃいますけどね。時代は変わりましたよ。

小林 私も東京に出てきてから17年間でっち小僧をやり、百貨店をやり、マーケットの調査をやって、そのあと自分で会社を始めた。常にアイデアを出して、先手先手でなにをやっていかということなんだよね。やってみなくちゃわからないんだ。やってみると、やってみないで考えてる人という。行動する人は、成功すれば3歩も先に行く。考えるだけの人は10歩も遅れちゃう。

●健康で、夢のある能代・山本に

小野 私は選手時代が終わってから、生涯スポーツ(一般のコミュニティ・スポーツ)の振興に従事しています。今、メタボリック・シンドロームとか生活習慣病予防の流れで、中高年齢者の健康づくりを重要視しなければならないということで。欧米の場合には、地域社会にスポーツクラブがいっぱいあるんです。そこで選手が育っているだけでなく、高齢者もそこで運動してるんですよ。そういう土壤がある。日本には学校の運動部と実業団しかなかった。これでは選手も育たないし、学校を卒業すると運動もできない。東京オリンピックが終わってから、国民の力は体力からくるんだということで、河野一郎(当時の国務大臣)が国民体力づくり運動を展開しました。そのなかで私の場合には、学校体育とともに社会体育を振興しようと、欧米諸国のスポーツクラブを日本の社会に育てていきたいということで、仲間と一緒に始めたのが日本スポーツクラブ協会です。平成7年から文部科学省が始めたのが、総合型地域スポーツクラブといって、サッカーくじの

totoの売上げで全国にスポーツクラブを作って、そのなかで選手も育成していこうというもの。各市町村に1ヵ所はスポーツクラブを作ろうとしていて、2000以上できたんだけど、やっぱりお金がないんですよね。欧米の場合、スポーツクラブというのは長期にわたって自主経営するものと考えられていて、地域行政とクラブ会員の共同の責任において運営されております。日本の場合、スポーツはお金を取ってまでやるべきじゃないという感覚がまだある。だから、3年間は文部科学省が予算をつけるけども、あとは自分でやれといたら、経営できる人がいないと長く継続できないんです。それでやめていっちゃう。せつかくの予算が一部では台無しになってる。少なくとも相当以上は育てていかなきゃ。そこで現在、スポーツ・マネージメントの指導者養成をやってるんです。15年近く経ってやっと地域の中で育ってきてるというのが現状で、200年以上にもなる伝統あるヨーロッパに比べたら今の日本は100年も遅れてる。日本はやりだすと速いから、20年、30年後には欧米に近づくんじゃないかなあ。ある意味では開発事業なんですよ。

小林 能代へときどき行くと、喬さんにいろいろ貢献してもらってるという話は聞くんだけど。

小野 新しい運動をみなさんに紹介してるんです。空き地を利用して、だれでもできるスポーツを薦めたい。東京や長野で盛んなマレットゴルフというのがあって、それを能代に作ろうと、前の市長(宮腰洋逸さん)にお願いして作ってもらった。夏でも涼しい林の中にそのコースがあります。落合に能代山本スポーツリゾートセンターができたでしょ。

小林 アリナスな。

小野 能代工業校長を退任されたバスケットの加藤廣志先生が館長で、私が名誉館長をしています。アリナスを中心にそういうふうな運動を展開しながら、健康運動友の会を能代の中に作りました。今、真向法(まっこうほう)体操というものを、齊藤滋宣市長さんをお願いして、市民に薦めていただいております。四つの形の体操で健康づくりをするもので、自分でできる運動ですから、お金はかからない。自分自身で健康体になって、生活をエンジョイできるように。屋内で運動の仕方を教える活動の一部として、簡単な健康運動のできるスペースを私の実家に作ったんです。いつでも、どうぞ使ってくださいということで。

小林 いいことだよなえ。

小野 新しいレクリエーション運動みたいなものは



小林肇(こばやし はじめ)

1929年(昭和4年)12月、能代市扇田出身。1965年、生活用品の専門商社・株式会社友和を設立(設立時は友和商会)。東京本社のほか、早期から中国など海外に進出し事業を展開する。現在、代表取締役会長。能代高校東京同窓会では1991年(平成3年)から1999年(平成11年)まで会長をつとめる。<http://www.mum.co.jp/yuwa/>

200ぐらいの種目があるんですよ。オリンピックのような種目は青少年がどんどんやればいい。

小林 第五小学校(母校)の130周年のとき、なにか話せと頼まれて行ってきたんだけど、小学生にあなたがたの夢は何ですかと聞いたら、宇宙に行きたいとか、いろんなことを言いだしはじめたから、その夢をまとめてくれる像でも造りましょうかと言ったら、みんな大喜びしちゃった。それで秋田の美術工芸短大の先生に頼んで、像を造ってもらった。学校のあたりに鳥が飛んでくるから、その鳥を付けてくれと子どもたちから注文が出たので、鳥を3羽飛ばせて「夢の翼」という像なんだよ。能代高校にある「自在の像」(小林さんからの寄贈)と同じで、今度は小学生向けに「夢の翼」にした。

小野 それはいいですね。能高の同窓会のやるべきことはなにかないかと考えた場合、たとえば能代出身で芸術に優れた人がいれば、そういう人に市民のためになる話をしていただくとか、そういうことで能代から人材をもっと発掘できるんじゃないかな。私はスポーツに関係してきたから、健康運動クラブという形で市民のためになれるかなと思って。

小林 本当だね。去年の総会で講演した泉さんみたいに、立派な人材がいるんだから。地元ではなかなか殻を破れない。外部からどんどん言ってもらったほうがわかりやすいですね。

小野 東京からも発信しなきゃ。アイデアを提供してください。それが在京能代高校同窓生の仕事の一つでもありますよ。

取材(2009年6月23日)／構成・淡路和子(第55期)

取材にあたっては、関根市男副会長(第29期)にご協力いただきました。

恩師インタビュー*****

仙葉清志先生

明朗で楽観的な生徒たちとの思い出

1972年(昭和47年)4月から1984年(昭和59年)3月までの12年間、国語科教師として在籍され、昨年、今年とCA(キャリアアドバイザー)として能代高校に関わっていらっしゃる仙葉清志先生にお願いしました。



◆近況、30年の歳月に思うこと

朝の3時半ころから寝床の中で2時間くらい読書します。起床後およそ1時間愛犬の散歩に出かけます。健康のために犬が私を引っ張っているといった方がよいかもかもしれません。定年退職して現在は、嘱託で能代高校進路指導室で、生徒面接、進路情報の収集・整理、CAだよりの作成、インターンシップのお世話、小論文の出題傾向などを調べています。生徒面接では、かつて教師として教えた方々のお子さんと頻繁に出会います。私は、能代高校に12年間奉職して昭和59年3月に他校に転出していますから、30年の歳月を越えて昔の生徒に会うような気がします。時代は激しく動いていますが、教育には『不易流行』の不易の部分がありますので、30年前と同じことを話すこともあります。もちろん、教育には流行の部分もあり絶えず勉強しなければなりません、30年の歳月って何なのでしょうね。

「CAだより」では、進路情報の収集という意味で先輩の皆さんの文章を載せましたが、皆さんの成長振りには、教師としてただ感激するばかりで、私自身も励まされております。昔ある出版社から「田舎の高校から京大に入る方法」というタイトルで、能代高校のことを取材した出版社がありました。生徒たちが担任の私に向かって『俺たちの学校は田舎の高校か』と詰め寄ったことがあります。私は『生徒は一流、先生も一流。能代高校は田舎の学校ではない』ととっさに答えました。生徒たちは何か考えるようにして黙ってしまいました。地理的にも、突出した学力を持った生徒が少ないという点でも、能代高校は田舎の学校かもしれません。しかし、その

後の生き方・頑張りでそのハンディを挽回しています。このように多くの人材を輩出しているという点で「能代高校は田舎の高校ではない」と信じています。

◆国語科の教師として

私はもともと、数学や化学が好きでした。一方、源氏や芭蕉やトルストイにも心惹かれていました。進路選択は超散漫で、東北大学の理系、秋田大学の国語科を受けて、両方合格しました。後者を選んだ私を周囲は奇異の目で見ました。私は高校時代国語が好きでしたが、古典文法が大の苦手でした。分かれば何でもないことなのですが、高校時代の経験でどうしたら文法を分かりやすく教えるか悩みました。また、高校教員として新米の時から受験国語で悩みました。「模擬テストで国語が悪いぞ」と指摘されて意地になり、出張の度に予備校に行って一流の予備校講師の授業を見せていただきました。「敵わないな」と打ちひしがれたこともしばしばです。何はともあれ、自分の実力をと、必死に勉強し本も買いました。お陰で書庫だけは二つ作りました。他校の生徒に負けさせたくない一心で、皆さんには厳しすぎたり、意地悪い言葉を投げたりしたかもしれません。国語教師として嬉しいことは、国文科に進む生徒が出ることでした。

◆能代高校気質とは

一言では尽くせませんが、敢えて言えば、明朗で伸び伸びしていました。先生たちがあせる割には、茶目っ気があり楽観的でした。クラスや部活の生徒と一緒に田沢湖や花巻・盛岡を旅行したことも懐かしい思い出です。その内、花巻・盛岡旅行では、岩手大学学生寮で生徒と教師が雑魚寝でした。夜中、枕元がうるさいと思って目を覚ますと、生徒たちが生意気にもジョニ黒や何やらを囲んで何やら議論してわめいているのです。ジョニ黒は没収、一人ひとりの頭に思いっきり拳骨を食らわせて、静かになったところでまた寝ました。生徒指導部には一切話しませんでした。ジョニ黒は後で私が独りで楽しみました。未成年者の飲酒、私の体罰と強奪、生徒指導部、30年前のことですから、すべて時効が成立していますので、暴露します。教師の枕もとでウィスキーを立てて何やらわめいている図々しくてトンマで、しかしどこか憎めなかった少年たちが、今は有名銀行の行員、大学教授、公立の教員、公務員等になっています。みんなちゃんとやっているようだから、彼らはその後まともに頑張り、伸び率もよかったのですね。

悪戯もするが、頑張るときは頑張る。これが能代高校生らしさだと思います。

◆同窓生と関わって感じたこと

皆さん底力を持っている方々ばかりだということです。教師の私が教えられることばかりでした。そういう方々と12年間、そして、来年まで勤めると14年間も一緒に過ごせるということは私の生涯の幸せだと思います。袖摺りあうも他生の縁、同窓生同士助け合って、切磋琢磨しあってお互いに一層発展しあうことを祈ります。

◆同窓生の皆さんへ

沢山の思い出をありがとう。みんなに励まされて、みんなのお陰で私も頑張ってきました。

◇昨年原稿を依頼された「CAだより」には、たくさん同窓生の頑張っておられる姿が書かれていて、本当に感激しました。そこで、二度にわたって能代高校と関わりをお持ちの先生に是非にと、今度は逆に原稿をお願い致しました。先生、ありがとうございました。

大塚雄蔵(第45期)

大塚聡子(第49期/旧姓佐藤)



平成20年10月4日の総会・懇親会より。

印刷・製本

ホームページの作成・更新

大森太田印刷有限会社

太田勝治

(第29期 三種町鹿渡出身)

〒143-0015 東京都大田区大森西2-1-21
 電話 03-3765-1779・FAX 03-3766-1228
 E-mail: ota-p@nifty.com
 URL: <http://homepage2.nifty.com/ota-p/>

今年の能高祭の壁新聞から

2009年(平成21年)の能高祭のクラス対抗壁新聞コンクールにおいて、2年C組の新聞「暁星(ぎょうせい)」で東京同窓会のブログがとりあげられました。その抜粋をお届けします。若い力が感じられる頼もしい記事で、「暁星」は佳作を受賞しました。

みなさんは、能高の東京同窓会がブログを開設しているのをご存じだろうか。「新 いつかの同窓会～『松陵健児』全員集合』のタイトルのもとブログの運営に携わっている同窓生の一人、吉田真由美さんにお話を伺うことにした。

まず、ブログを作った理由についてだ。これには昔は女子生徒が少なかったこと、現在は生徒数が減少していることが大きく関与しているようだ。これらが重なり同窓会の参加者も減少していたらしい。そこで、女性や若い人々も気軽な情報交換の場にして欲しいという思いから開設を決めたという。なるほど、読んだ人が意見・感想をコメントとして書き込めるブログを用いれば幅広い世代の同窓生の交流が可能となる訳だ。

また、数人が交替で記事を書いているこのブログの運営はどのようなものか聞いてみた。すると、「世代、性別、住む場所などが違っていても、【能代高校】という一点でつながっていて会話がするのは不思議ですが、うれしいことです。」と語る。時は違えど、能高で高校時代を過ごした卒業生の母校への思いはきっと誰もが皆同じなのだろう。そして、吉田さん達同窓生の思いが届いたのか、記事に対していろいろな反応があり、そこから話題が広がっていくこともあるようだ。

そう、能代高校は今在学中の私達だけでなく多くの卒業生達の思い、そして彼らが創り上げてきた歴史から成り立っているのだ。だから、私達は勉強や部活を全力で取り組み、結果を残し、卒業生が能代高校出身であることを誇りに思えるような歴史を築きあげる必要があると思う。それだけではない、何気ない毎日のあいさつや整容もきちんとしなければいけないと思う。そして、私達も卒業後、在学を陰で支えられるような良き先輩になりたいと思う。忘れてはいけない、同窓生はどこかで能高を見守り応援しているのだ。

(「暁星」より一部を転載)

平成21年度 能代高校東京同窓会総会・懇親会のご案内

特別企画★ 松尾一彦(第43期)、宮城伸一郎(第44期)トーク出演決定! 他にも樽子山校舎が生んだ音楽業界人が応援登場の予定

【日時】平成21年10月18日(日)

受付 12:00～

総会 12:20～

特別企画 13:00～

懇親会 13:40～

【会場】アルカディア市ヶ谷 3階 富士の間

JR、地下鉄(新宿線、有楽町線、南北線)

市ヶ谷駅より徒歩3分

千代田区九段北4-2-25

電話 03-3261-9921

<http://www.arcadia-jp.org/>

【年会費】3,000円(1世帯)

*卒業年次による免除や割引はありません。

*2009年の新卒者に限り、本年のみ年会費1,000円(卒業時に2,000円納入済)

【懇親会費】男性7,000円 女性6,000円

*割引制度や特例があります(下記参照)。

【出欠】同封のがきは9月26日(土)まで投函ください。東京同窓会ホームページでも受け付けます。東京同窓会ホームページ

<http://shoryokenji.web.fc2.com/>

★最新情報はホームページをご覧ください。



松尾一彦(まつお かずひこ)

1954年秋田県八森町(現・八峰町)出身。能代高校卒業後、ジャネットのギタリストとして74年デビュー。76年オフコース(「さよなら」「愛を止めないで」他)に加入。89年の解散後は、ソロ活動が続けるかたわらABCなどのユニットで活動し、プロデューサー、作曲家としても活躍中。

<http://www.gallery-untitled.com/>



宮城伸一郎(みやぎ しんいちろう)

1955年東京都出身。小学校6年で能代市に移転。75年がむがむのベース兼ボーカリストとしてデビュー。ARBに在籍。80年チューリップ(「心の旅」「虹とスニーカーの頃」他)に正式加入。解散後はプロデューサー、作曲家としても活躍し、2007年よりソロ活動中。
<http://www.miyagishinichiro.com/>

【懇親会費の割引・特例】男性7,000円 女性6,000円から、以下の額を差し引きます。

- (1) 初参加割引 総会・懇親会に初参加の同窓生は … 3,000円引き ★1と2は重複可
- (2) 若者割引 第58期生以降の同窓生は …… 3,000円引き(来年は第59期生以降が対象)
- (3) 学生割引 同窓生でまだ学生の方は …… 懇親会費を免除(年令不問)
- (4) 新卒者の特例 今年2009年に卒業した同窓生は … 懇親会費を免除
- (5) 家族の参加者 同窓生の家族の参加者は …… 3,000円のお支払いで参加できます
- (6) 友人の参加者 東京同窓生以外の参加者は …… 5,000円のお支払いで参加できます

★平日は参加できないという皆さんの声を反映し、初めて日曜日の開催を企画しました。

★健康が不安という方もご家族やご友人と一緒に。

★ご家族の方に同窓会の雰囲気を見せてあげたい方も、遠慮なくお連れください。



平成20年度総会・懇親会の出席者(敬称略)

【19期】小林肇、吉方盛恭【23期】矢口裕【24期】金丸正、小山黎子、畑江道弘、山縣輝輔【25期】栗原俊一、佐々木胤麿、那須秋男、畠豊彦【26期】板倉富彌、岩見尚夫、畠山信孝、八柳昭義【27期】大村真陸郎、後藤信義、斎藤秀夫、高砂浩、山田邦夫、若松正雄【28期】石川輔宏【29期】石川正順、太田勝治、笹木廣澄、関根市男、塚本祝永*、宮腰興紀、宮腰瑞夫【30期】相沢節夫、今立駿、岩村光二*、工藤トシ子、熊谷幸夫、武田茂*、藤田道義、宮腰七郎*、宮腰忠、渡邊傑*【31期】大倉報三、熊谷博雄、馬場富男【32期】高田政勝【34期】庄内正、長岡忠光、西川廣正【35期】石山眞、金谷満郎*、干場革治、横田眞理子【36期】加藤和海【37期】今野廣隆【38期】岩谷憲一*、金野正道、豊嶋誠【39期】大塚進、熊谷一美、菅原渉【40期】智田農【41期】小河範也【43期】大塚和博*、菊池忠夫、佐藤悌弘、須藤正喜、福岡武、渡辺博栄【44期】庄内俊憲、橋本周平*【45期】金谷哲*、鎌田泰宏、高松武史、袴田邦夫、真崎裕、三浦洋【46期】秋林泰樹*、石井喬、斉藤靖雄、平川尚、吉田真由美【47期】和平忠幸【48期】安保伸一*、泉牧子*、北林蒔子、竹内勉*、野島美季子*、野村松信【49期】片谷浩之、田村盛仁、松永京子【51期】河田康史*、佐藤茂*、袴田亘【53期】梶原禎子、吉田順【54期】佐藤篤規【55期】淡路和子、棚橋はるひ*【59期】棚橋さゆり*【62期】大高忠勉【67期】小野立【75期】清水美花*【77期】金谷怜*、鶴田裕里子*、中川菜穂子*、森田奈都美*【78期】今西拓磨*、楊裕介

◇以上会員参加者 107名(名前の後ろに*マーク付きの人は20年度の初参加者26名)

◎恩師1名 ◎家族1名 ◎来賓15名 以上参加者総数124名

★残念ながら当日ドタキャンの人が8名おりました。今年は是非参加してください。

平成20年度総会 都合が悪く欠席しますと回答いただいた方(敬称略)

前号に総会出席者リストを載せたところ、複数の方より「同期生の安否確認にもなるので欠席回答者の名前も是非知らせて欲しい」との要望がありました。回答頂いた方は下記の通りでした。

【8期】星信勝【13期】勝永金一【14期】宮原茂悦【15期】杉本千門【16期】金丸明【17期】畠仁也、工藤典夫、岩森栄助、金崎邦文【20期】小野喬、小田嶋朗、民谷慎一、塩谷隆二【21期】小野茂、斉藤正、五十嵐資和、佐藤篤朗、八杉和男、竹内京一【22期】村井克自【23期】小林實、小松俊典、石岡卓司、宮腰郁朗、立花翼、七戸一正、佐藤周英、芳賀徹、山本一二、細田了平、清水良二【24期】今村宏司、金子勝信、金野哲夫、中島正美、木村喜作、蓮沼旬、栗生沢浄、豊田誠【25期】小貫實、工藤尊久、北島茂、鈴木千穂子、松本文子、能登進、民谷恒二、高橋伸次、町田次男【26期】村井忠治、川尻登、野呂文雄、池内廣之、宮腰英彌、神山正子、佐々木章、仙台嘉仁治【27期】佐藤斎、佐々木隆、福田稔、石嶋喜直【28期】松橋誠喜、宮腰達朗、長野青史、須田正巳、堀内盛、穴山勝良、宮腰義昭、三浦隆志【29期】畠山修、佐藤晋介、小林幹男、下間弘道、山崎武、佐藤扶美恵、大隅(金野)清、国松英二、中田龍一、赤塚鉄男、小山幹男、佐藤晃一、大高幸夫、富岡重雄【30期】小形昇三、田口昌孝、熊谷洋一、藤田繁、小田幸夫【31期】佐藤昭夫、金子征夫、須藤靖夫、畠和夫、長岡満夫、岸辺武彦【32期】吉岡良隆、笠原強、宮腰克也、秋山昭夫、千田修、松橋厚、森田弘、山本敏、森喬夫、高谷誠【33期】猪野瀬隆夫、平川隆一、清水靖子、関根弘崇、千葉恵美子、工藤耕平【34期】石井伸明、熊谷元之【35期】佐々木源悦、小野信継、平川徳道、田中三郎、鈴木雅順、茂呂満、望月美智子、川添能夫【36期】武田忠克、深井学、男鹿谷浩市、近藤寛、本庄真、佐藤修一、工藤正樹【37期】袴田大蔵、加茂谷純一、若狭秀巳【38期】佐藤春香、塚本金悦、畑沢鉄三、成生邦洋、戸松伸一、鈴木貞幸、森本由美、田村修平、松村ひとみ、坂田二郎【39期】金野峻明、浅野秀剛、下坂節男【40期】高橋博美、熊澤朝子、柴田正信、小林哲、平澤知明【41期】鈴木幸男【42期】佐藤行信、工藤俊一、山柄一庫、加藤正人【44期】渡辺隆幸【45期】大塚雄蔵、見上孝一、河田昌俊、平野信任、佐藤晃、小杉山乙矢、奈良博文【46期】佐々木恵【47期】大坂吉行【48期】淡路正則、小林和彦【49期】越後久美子、小杉山晃一、平川智志、山田清勝、大塚聡子、岸部浩司、田口光彦【50期】高杉睦仁、佐藤孝也【54期】遠藤いぶき【55期】大山顕、浅野敦志【59期】日吉由紀子【75期】小松かおり【78期】松橋佳澄

平成20年度総会・講演

「本当は怖い食の話」

講師 泉 牧子 (第48期)



平成20年の総会では、JA秋田やまもとでJAジャンビニANN・AN(ジャンビニ・アンアン)を立ち上げた同窓生、泉牧子さんを講師に迎え、食をテーマにお話しいただきました。泉さんの「安心して食

べる運動」は全国的に高く評価され、全国食生活コンクール会長賞など数々の受賞歴があります。泉牧子さんは、現在、財団法人秋田企業活性化センターでご活躍中です。講演会の一部をここに掲載いたします。

● どうしておにぎりに油が？

これはジャンビニ(JAのコンビニの意:泉の考案)アンアン(安心のアン、安全のアン)の意:琴丘中の3年生が考案)立ち上げのきっかけでもあります。

例えば、コップに水を入れて、お店から買ってきたおにぎりのご飯の部分を沈めます。すると油がワッと浮いてきます。水の表面には油膜が張ります。この油を子どもたちに見せて、「みんなは、おにぎりをにぎる時、手に油をつけるのかなあ」と尋ねると、「違う」。じゃ、「どうして油が浮いてくるのかなあ」と、みんなで調べることになりました。

「子どもたちが簡単に満腹感を得る」「どこで、だれが、どうやって作ったかも想像もしないで、満腹感を得る」のはどうして?油が入れられる理由は、ご飯粒が輝いておいしそうになる。また、ぼそっとしないのでおいしく感じられるからです。では、この油は何という油なのか、この油に入っている酸化防止剤は何か、ということ、子どもたちと実験をしながら、「食べ物の現場を想像する力を養ってほしい」と願いながら、お店を作りたいという方向に行きました。

食への不信感の最初は、秋田市の若竹学園の園長が、体の不自由な子どもを前に「この子たちも好きでこうやって生まれてきたんじゃない。食べ物が原因ということもある」。「腐ったグレープフルーツ」の話になりました。そこでグレープフルーツが腐らないと秘密を知りました。今のお母さんたちは、カ

ビが生えたり、虫が付いたりすることには敏感ですが、腐らないということの裏にあるものに気付いていません。横浜港で輸入の果物を見学しました。グループフルーツもレモンも、アメリカではポストハーベストという法律の下、収穫した後の果物に農薬をかけてもいいことになっています。その農薬の中に、ベトナム戦争で、ベトナムドクちゃんのような障害者をたくさん産んでしまった枯れ葉剤があることを知りました。日本人はレモンのへたがとれただけで買わないそうです。格好悪いからと言って。そのためだけにかけられている枯れ葉剤ということを知った時に、腐らない原因が分かりました。それ以来、娘の小学校の給食でグレープフルーツが出ることに非常に違和感を覚えました。

そこでJAの合併をきっかけに、JAで学校給食に安全な食材を提供したいと考えました。しかし、



教育長や先生、町長らとの会議上、教育長が「地元のものを使う理由は何もない。1円でも安くするなら考えてやってもいい」。ショックな発言でした。自分は発言する立場ではありませんでしたが、「学校の先生は、子どもたちに命が大切だと教えているのに、子どもの命を作る食べ物は何でもいいのですか、価格が安ければ何でもいいのですか」と思わず発言。後に組合長に叱られました。そんなやりとりの後、学校給食に注目が集まり、今では八峰町と三種町の給食は、地元のお米、みそ、野菜、果物、加工品など全部地元のものを使っています。

● 食べ物の現場は農業

ジャンビニでまず作りたかったのは、油の入らないおにぎりでした。当たり前のおにぎり、母親が作るのと同じおにぎりを子どもが食べてほしいなという単純な発想です。もうひとつ、唐揚げです(ジャンビニの人気商品)。大量生産される唐揚げの中に



は遺伝子を操作して作られるはだか鶏という鶏の唐揚げがあることを知ったからです。私は、子どもたちにはきちんと毛が生えた鶏の唐揚げを食べてほしいと思いました。

ジャンビニ立ち上げの一番の壁は、やはりJA内部でした。「なぜ農協でそういうことをやる必要があるのか」。給食提供時からですが、JA事業にこのような事業は一切ありません。上司からは「農協にない仕事はやる必要がない」と反対されました。特にジャンビニ事業立ち上げには数千万円という費用がかかります。「母親の気持ちが経済事業として成り立つかどうか」ということが自分の中では高いハードルでした。どう工夫すればJAのためにもなるかも考えました。

ある時、上司に「(農協にないことを次から次へとやって) お前は浮いている」と言われました。私は即答しました。「大丈夫ですよ。あなたが私の足をきちんと引っ張っているじゃないですか」と。私には信念がありました。もし神様が「こういう当たり前の食を提供するお店が、地域に一店ぐらい必要だ」と思ってくれば、できるはずだと頑張ってきました。そして11月に理事会で承諾され、翌年3月にはオープン。短期間で経済事業として成り立たせるために、おにぎりや唐揚げ、弁当、そう菜の他に、米粉のパンを作ることにしました。秋田では当時どこでもやっていなかったのが、一番先に米粉パンを作ることで経済事業を成り立たせることにしました。そこでコメワッサンというパンを作りました。

私がずっと食の仕事をしてきた中で伝えたいことは、食べ物の現場は農業だということ。食べ物は、農業、林業、水産業の第一次産業から生まれるものです。満腹感を簡単に得られる子どもたちに、食べ物の現場を伝えたい。それが「JAができること」と信じて、私はこの仕事を続けてきました。ずっと農協にはない仕事を続けてきた中で、組合長が「今は全然農協のためにならなくても、いつか私と一緒

にやってきた子どもたちが大きくなった時に、JAのファンになってくれたらそれでいいから、まずは「がんばれ」と声をかけてくれたことに感謝しています。

●茶碗1杯に入っている米の数はいくつ?

最後にクイズです。「ごはん茶碗1杯には、ごはん粒何個入っているでしょう。500粒以内、500?1000、1000?1500、1500?2000、2000?2500、2500?3000、3000?3500、3500以上」。正解は3300粒です。子どもの茶碗だと2600粒ぐらいです。3300粒というのは、たった苗3本です。この3本が成長して実り、茶碗1杯のごはんになります。3本の苗を植えた三角形にはオタマジャクシが35匹もすんでいます。

私たちは、子どもたちや地域みんなの食を委ねられる農業、そして生物の命も委ねられる農業をこれからも続けていきたいと思えます。

記事構成/河田康史(第51期)



*写真は平成20年10月4日(土)、アルカディア市ヶ谷(大雪の間)で開催した総会・懇親会より。総会・懇親会の写真集は東京同窓会ホームページ(<http://shoryokenji.web.fc2.com/>)からもご覧いただけます。

投稿

教育について

第24期 山縣 輝輔

6月23日、国際文化会館にて「学力世界一のフィンランドに学ぶ＝世界の中の日本の教育」講師：佐藤学氏（東京大学）で、アイハウス・ランチタイム・レクチャーに出席した。

講演前のランチタイムに同席したもと慶応大学の元某教授との雑談の中で、慶応大学の入試の面接で、ハーバード大学同様に

1. 何故この大学に入りたいのか。
2. 何を勉強したいのか。
3. 将来どんな道に進みたいのか。

等を質問すると、日本の学生の大半は

1. 親が進めた。または先生に進められた。という回答が多く自主性に乏しい。
2. この学科は面白そうだから。最低限ぎりぎりの単位で、卒業したい。
3. 面白そうな職業が見つかったら、その方面に進みたい。

おそらく日本の社会が活性化し景気が良く、楽に就職できた時代の学生気風と思われる。

中国からの留学生は

1. 大学の多くの卒業生が政財界で活躍しており、立派な教授がたくさんおり、勉強しやすい環境にある大学であるから希望した。
2. 経営の基本を学べる授業が設けられ、サポートする教授に魅力ある先生がいるから。
3. 将来、会社経営を目指したい。とか、父の会社をより大きくしたい。

と大学を十分調査し、自分の意思で、将来設計の持った自主性ある学生が多いとの事である。

今回の講演について触れると、フィンランドの教育の優秀性は「質」と「平等」で優秀であることである。学生の読解力、数学力、科学力、問題解決力等について極めて優秀である。

その優秀さの主要な背景は

- 1) リテラシーを重んじてきた歴史的展望
- 2) 教師の質の優秀さ（フィンランドの教師はすべて修士号取得者）
- 3) 地域の図書館数多く充実された図書館（国民一人当たり年平均23冊利用、読書の習慣）
- 4) 国民的な外国語能力の高さ
- 5) 家庭における親と子の間のコミュニケーション

のよさ等がある。

佐藤先生は「日本への示唆」として次のように述べていた。

・フィンランドと逆行する教育政策と教育改革

1. 教育の「量」から「質」への転換（未達成）
cf. 新学習指導要領からの対応（教育内容、授業時数の増加）＝鍵は教師の質、教科書の質、学びの質
2. 「平等」の教育の自己崩壊＝習熟度普及。高校入試の持続。学力格差、教育格差の拡大（不平等社会の拡大）
3. 高度知識社会（ポスト産業主義社会）の教育の転換（未達成）＝劣悪な教育環境と伝統的な学びの様式（テスト、ドリル、一斉授業の伝統、すし詰め学級、教師教育のレベル）

今、一部の青年が、自分の夢破れ、責任を他に転換し、種々問題発生しており、今後どのような教育が望まれるか、皆さんも色々意見があると思うが、この機会に私の考えを述べさせていただきます。

日本の教育は、江戸時代の藩校、寺子屋の伝統の上、明治時代の欧米文化に追いつくため学校制度をヨーロッパの教育制度を参考に、戦後はアメリカ教育のよさも取り入れ改善に努めてきたと思う。戦後、従来の家族制度が崩壊し、民主主義の履き違えやすい教育が行われ、一時は伝統的教育の良さにより、日本経済の発展に寄与した。1980年代不況とともに、産業主義社会から、高度知識社会への変化の中、日本の経済界はアメリカ式経営を採用し、家族主義的経営から、株主優先へと政策転換され、不況が来ると、簡単に人員整理し、黒字経営化を優先され、昨年後半に起きた、アメリカ発の世界大不況とともに、なお一層格差の広がり、不平等社会へ拡大し、人々に不安感を与えている。

日本の社会を明るくし、夢を持ちつづけ、壁を辛抱強く突破できる青年を作るには、どうしたらよいか。

幼稚園、小、中学校まで親と教師が協力し、伝統的基本教育のほか、人間はひとりでは生活できないこと、人に迷惑掛けないこと、自己の自由主張する前に、他人の権利を尊重、自己の責任を持つこと等を教え、将来人間社会で、自分は何で役に立てるか、どんな仕事をしていくかを自分で判断できる人間を育成すべきである。

高校教育は一般と職業教育のほか、能代高校が平成19年度から実施した「ウィル・プロジェクト」により新しい教育改革をしており、高校時代に将来はどんな職業について、生きていくかの目標を自

ら決め、どんな大学で、どんな学部で、どんな方面の職業について、日本の社会に貢献するかを自己の意思で決められるような高校生が育っていくことを願っております。

能代高校の「ウィル・プロジェクト」高校教育の大成功を祈ってペンをおきます。

IT対応と脳活のこと

第25期 畠 豊彦

パソコンでインターネットを使いこなせる親の割合が米国では5割以上であるのに、日本では1割程度で韓国よりも低いといわれる。若者や子供のパソコンや携帯の理解度、頻度が著しく進んでいる現状から見れば、web情報の送受信等において世代間・友人間に著しい格差が生じていることを感じる。小学生の3割、中学生の7割が携帯を使っているといわれる今日、その使い方でも多いブログが「はじめ」に繋がっていることが教育界で大問題化している。ブログやプロフ（プロフィールの略）が自己の活性化や共感、動機付けなどに役立つ効果がある一方で、無名性（又は匿名性）を伴う誹謗中傷によって取り返しのできない事件に発展する危険性を常に孕んでいる。パソコンをワープロとしてのみ使用する者とiモードでインターネットを使用できる者との理解度に大きな格差があり、65歳以上の高齢者の間でも同様にこの二者の格差が生じている。

そこで、高齢者にとっては携帯メールを覚える必要度は低いと思うが、せめて無限の広さと深さをもつインターネットの世界にアクセスすることができれば現時点の世界を広範囲に見ることができるし、他人のブログに触れることにより多世代の人間とweb上の言葉を通じて意見や主張を吸収することができる。また、同世代の人の主張に納得して共感を得たり、自分と異なる見解があることを知ること、又は新知識を得て鼓舞されることもあるから、インターネットを通じて脳に刺激と活力を与える「脳活」に役立つ可能性があると思う。そのためには、最小限の機能を備えたパソコンを国が高齢者に廉価で補助して供給してあげることが望ましく、高齢者のIT音痴の解消に役立つと思う。

最初は東京同窓会のHPや多数の同窓生のHPやブログに触れることから始めればよい。そこには不断の努力と真摯な姿勢で発信している多くの言葉に会うことができる。プロフ欄を設けて高齢者が参

加し易くし世代間差を越えた賑やかなブログ交流ができることを期待したい。私の同期の友人のブログには政治経済・スポーツ等の多方面にわたり時の話題が独自の視点から正論を堂々と述べられており、コメントをくれた人には必ず心のこもった返信をしていることに感心している。また、ブログ仲間の輪が広がっていることもコメントの反応からわかり、これは日ごろの努力＝脳活が生んだ成果である。

高齢者も、インターネットを通じて脳活を進め、世代間差を少しでも縮めながら21Cのi t世界を生き抜きたいものである。

「学力首位」と大学進学

第35期 干場 革治

近年小学生の学力検定で秋田県が首位を占め話題になる。先日も朝日新聞で報じられ、関心があるとは思えないカミさんまで、秋田では3年生まで30人学級で、4年生から6年生まで担任の先生の他にもう一人先生がつくの！と感心している。小、中学生の学力が上がれば、大学進学の成績が上がるのも当然だが、こちらはパツとしない。東大合格者数に関する限り毎年10人前後と、半世紀近く前、私が受かった頃と変わらない。変わったのは秋田と横手の両校に合格者が集中することだ。去年まではそれでもたまに能代や大館からも合格した。今年は秋田と横手のみになった。昔は毎年一人は合格していた母校から、どうして合格しないのか？去年は2年ぶりに峰浜中学出身の渡辺君が文三に合格したので、先輩風を吹かして渋谷で寿司を振舞い、本当は

新橋で同窓生に会える店

《お昼には妻とらちご飯に
焼き魚か煮魚が一皿ついでに定食が人気！》

おいしい酒 新橋「和作」
と肴の店

第36期 加藤和海(能代市新柳町出身)

新橋駅前ビル1号館
(蒸気機関車の反対側の駅ビル1階)

TEL 03-3575-1756



東京同窓会に出席して

第45期 金谷 哲

文一に行きたかったという渡辺君に、教養学部の教養学科に進学すると、就職等で法学部卒と同じ扱いになるよ！中国語クラスで1年上の新日鉄閔澤副社長も、文三から教養学科に進学した組だよ！とアドバイスする。

昔も学校が何か特別の教育プログラムを持っていた訳でなく、生徒が勝手に勉強していた。授業では教科書の範囲しか扱わず、それくらいのことは前以て教科書を読み、例題、練習問題を解けば理解できる。授業を聞いても仕方ない。1年の時から培風館の数物精義や旺文社の分厚い「英語の総合的研究」「古文の研究」等の受験参考書に挑戦する。1年生には難しい内容でも、解説をじっくり読めば入試問題の三つに一つは解ける。解けない問題も解説を良く読み理解する。それでも解らない問題は先生に質問する。2回目は初回に解けなかった問題だけ、3回目は2回目に出来なかった問題にだけ挑戦。時間はそれぞれ半減、1年生の間に受験レベルの学力が出来た。授業は聴かず、難しい質問だけする生徒だったが、こんな解き方も出来る？こんな解釈も可能！と、東北大出たての数学の畠山先生や国語の高橋先生には特によく質問、自説を認めて貰うのが嬉しかった。生徒の知的興味に応え、目標ともなり得る、情熱的師が今の母校にいるのだろうか？

英語や古文では注釈付きの原文もよく読んだ。多少の解らない所は飛ばし、沢山読むことを心掛けた。大事なタームなら何度も出て来るので、周りの状況から意味を推測出来るようになる。一度しか出ないものなら、重要でないから覚える必要はない。物心付き、知的好奇心が旺盛になり始めた小学3、4年生の頃、9人兄弟の8番目の私の周りには高校、大学の教科書や日本と世界の文学全集が転がっていた。手当たり次第に読んだ。裾野広ければ山高し。受験勉強だけしては受験に成功しないし、その後の人生も詰まらない。

今もそうだと思うが、東大の入試問題は知識の量をみるというよりは読解力、論理的思考能力、表現力をみる、オーソドックスな問題だ。1科目2時間、目一杯考え、書かされるのでぐったり疲れるが、誰にでも解ける(ように見える)。後輩には受験勉強は短期間に、重複を避け効率的に！歴史書と恋愛小説を沢山読んで、知識と読解力をつけ、恋文も沢山書いて！?表現力を磨き、志高くチャレンジして欲しい。

※写真は平成20年10月4日(土)アルカディア市ヶ谷(大雪の間)で開催した総会・懇親会より。

昨年、役員をしている同期の三浦洋君の勧誘もあり、初めて「東京同窓会」に参加させていただいた。いろいろな家庭事情で能代の仕事をやめ、現在宇都宮に住んでいる私に声を掛けてくれた三浦君にはとても感謝している。ちょうど娘の怜(第77期)も東京近隣で大学在学中なので、親子で参加させていただいた。娘の同期生にも声をかけ6~7人の若者の参加が実現できた。「東京同窓会」は、若者に対してとても寛大であり、年会費、懇親会費など多くの優遇措置があるらしいが、宣伝不足は否めないようである。卒業時にキーパーソンをつかまえて、その期の核となるグループを形成させることができれば、同窓会の継続的発展に結び付けられるのかなあなどと思いをめぐらせている。



さて、「東京同窓会」は、うわさどおり大盛況で、たくさんの方々とお会いでき、とても有意義な楽しい時間を過ごすことが出来た。講師である泉牧子さん(第48期)は、私が能代青年会議所に在籍中のころ事務局で奮闘された方で、本当に久しぶりにお会いすることが出来た。その頃より、農家自体に潜む現代化の問題(たとえば、農家の若い奥さんは自宅で収穫する曲がった野菜を廃棄する一方で、お店できれいななりっぱな野菜を平気で買う…など)や、ポストハーベストの問題など、農業や食に関する彼女の情熱は並々ならぬものがあつたことを覚えている。ちょうどその頃、青年会議所は「もったいない運動」を展開していて、泉さんの問題提起がきっかけとなり「もったいない野菜即売会」(曲がっていたりして廃棄される野菜の即売会)を行ったことが

思い出される。益々のご活躍を期待したい。

また、能代にいる頃大変お世話になった干場革治氏にもお会いすることが出来た。酒の勢いで、大膽不敵にも「娘の就職よろしく願います」などといってしまった。いやな顔ひとつせず名刺もいただき、本当に有難く思った。これからもよろしく願います。

こんな風に、同窓会はいろいろな方々との新たな出会いを提供してくれる。今年は、日曜日に開催されるようなので是非出席させていただきたいと思っている。役員の皆様、いつも有難うございます。また、お会いしましょう。



十里強歩を思い出して ～第3回東京マラソン無事ゴール～

第51期 袴田 亘

能代高校の伝統行事とって最初に思いつくのは、やはり「十里強歩」ではないでしょうか。男子は夜に集合して、大声で校歌を歌って（校歌斉唱で最も大声で歌うのは、①甲子園、②十里強歩、③東京同窓会総会の順だと思います）、午前0時にスタートし、女子がスタートする森岳を目指しひたすら走る。毎年コースは変更していたようですが、私が在学していた昭和53年から55年は同じコースで、檜山-森岳-高埕校舎だった記憶があります。女子のスタート前に到着しても、その時点でかなり体力を消耗し、いっしょに走ろうと約束していた男子もいたと聞いていましたが、女子はそんな男子には目もくれずスターとして必死にゴールを目指す。いっしょに走っていた微笑ましい光景はほんの数カップしか見た記憶がありません。

途中、通過点の父母の協力による応援や差し入れが疲れた体に活力を与えてくれ、それを繰り返しながら、歯を食いしばってゴールを目指す。いつの間

にか夜が明け、柏子所あたりから高埕の校舎が見えるころは、ばてばてで足が棒のようになり、ひざが曲がらず、ダセイで走り続けた十里強歩。ゴールの学校到着のころは、数えるほどの先生と生徒しかいない。ただし、味わったことのない達成感があり、卒業してから何度参加したいと思ったことか。

そんな思いを二十数年していた昨年、十里強歩よりやや長めの東京マラソンにふと参加してみたい衝動にかられ、申し込みをしてみました。すると、なんとということでしょう。7倍の倍率をかいくぐって見事と当選してしまいました。

それからは、毎週5キロ～10キロ程度をジョギングしたり、時にはママチャリでコースを試走したりと、きたるべき本番に備え、完走したい一心で、空いている時間を練習にあてていました。高校時代は部活（バスケット部）をやっていたこともあり、毎日が練習でしたが、社会人になってからは、健康維持のためのウォーキングと年2回の東京探訪の会に参加する程度で、これでは制限時間内のゴールは無理だと思い、参加するからには…と心を入れ替え自分なりに努力してきました。

当日の天気は日光の手前（今一）で、後半の強い風と雨に苦労しましたが、沿道の声援と数名の知り合いの応援に後押しされ、二十数年前と同じような疲労感と達成感の中、時間内に無事ゴールしました。時間は約6時間、順位は3万人中、2万2千番くらいでした。自分では満足しています。この年齢でゴールできたのは、高校時代に経験した十里強歩のおかげだと思っています。

参加チーム名を「能代高校OB会」で登録してしまいましたが、来年からは「能代高校東京同窓会」に改めチャレンジしたいと思います。

御徒町で同窓生に会える店

ふぐ・季節料理

きくち

第43期 菊池忠夫



〒110-0005

東京都台東区上野6-6-4 デュークビル1F

JR 御徒町駅より歩いて3分

電話 03-3839-3382

e-mail: fugu-kikuchi@mrg.biglobe.ne.jp

白神山地（藤里町）出身

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~fugu-ki/>

<http://homepage2.nifty.com/shoryo-tokyo/g2kikuchi.html>

東京同窓会の同好会を紹介します

東京同窓会には現在5つの同好会があります。それぞれの会に自己紹介していただきました。これらの会の担当者に連絡を取りたい人や、新たな同好会の提案や希望がある人は、事務局宛にご連絡ください。連絡先メールアドレス(東京同窓会事務局): shoryo-tokyo-01@live.jp

- 1) 活動内容
- 2) 設立時期、主な活動実績
- 3) 次回開催予定
- 4) 代表者

◆◆樽子山会◆◆

1) 樽子山を卒業した世代が各期を越えて参集し懇談します。

「集まって何するの?」それは「しゃべり合うこと」が目的です。その結果、会員のためになる何か得るものがあるはずだと思います。「何をしゃべるの?」それは何でも結構。たまに故郷や同窓会の事が出ても良いし、いまこの世の中、日本で話題にしたいことには事欠かないでしょう。

2) 3年前に発足しましたが、近況は、はかばかしくありません。

3) 安い会費で、都心から比較的近い場所で、年に2回くらいで毎回1名ぐらいからショートスピーチをしてもらい始めたらどうでしょう。故筑紫哲也流に言えば、いろんなことを自由に議論しあう「多事争論」をやったらどうか。このくのにの姿からふるさとの姿まで樽子山世代の関心事を語り合い聞き合う会にしようではありませんか。組織的には同好会の一つであっても同窓会や母校のためにもなる応援団になれば、これに越したことはないと考えます。奮ってのご参加を期待します!

4) 畠豊彦(第25期)

◆◆能球会◆◆

1) 皆さんそれぞれ趣味はお持ちでしょうが、誰でも何歳までも続けられる、それが『ゴルフ』であります。日頃の仕事やストレスから解放されたいと思う事はありませんか?年2回~3回、東京近郊のコースで楽しいひとときを過ごせますよ!

2) 設立時期は能球会事務局長にもお聞きしましたが、相当古い事は確かで、前回のコンペで26回を数えます。

思い出に残っているのは一泊で行った福島の常磐ハ

ワイアンズで、大勢の同窓生で盛り上がりました。最近と同窓生(参加者)が一人まで友人を誘う事ができますし、大先輩と一緒にプレーを楽しんで親睦を深められるのも『能球会』の強みです。皆さんレッツ・トライです!

3) 次回は、この秋を予定していますが、やってみたい方は是非お声かけください。

4) 石井喬(第46期)

◆◆能高釣クラブ◆◆

1) 自然を満喫しながら溪流釣を楽しみ、昼はバーベキューで食事、夕方近くの温泉で疲れを癒します。かなりの数の魚が釣れますので1人10匹以上は必ず持帰れます。バーベキューコンロ、調味料は用意してあります。食材お酒は各自好きなものを持ち寄り、楽しくやりましょう。防寒対策と帽子・サングラスはお忘れなく。

2) 設立時期 2007年5月

リヴァスポット早戸(神奈川県相模原市津久井町鳥屋)にて河原でバーベキューをして、釣をしながら秋の紅葉を楽しみました。現地集合の場合はAM6:00より受付。車の手配が出来ない方はAM10:00にJR横浜線橋本駅集合。PM3:00頃釣を終わり『ふじの温泉』。温泉で解散します。入漁料:4000円(釣をしない人は0円)

第4回能高釣クラブ(開催日9月28日・日曜日)では、河原でバーベキューをして、釣をしながら初



秋の森を楽しみました。山梨県都留市鹿留にての開催。森に囲まれた小川の流りに大きな魚がいっぱいいます。夕方釣を終わり『近くの温泉』へ行き、温泉で解散。入漁料：4000円(釣をしない人は0円)

3) 次回活動予告：6月中に行ないます。期日は未定です。

4) 小河範也(第41期)

❖❖五日会❖❖

1) 能代高校同窓生の青年婦人部の名称で、活きのいい若手同窓生達の親睦と交流を目的にした懇親会です。年に数回、季節毎に趣向を凝らした飲み会を行っております。

2) 設立は2006年1月5日(五日会の由来でもあります)。

[年間の予定]

1月:新年会、4月:花見会、7月:暑気払い、10月:紅葉会、12月:忘年会

3) 今年は既に新年会と花見会、暑気払いを盛大に終了し、今回は10月の紅葉会、12月の忘年会を予定しております。

現在の登録メンバーは約50名になりましたが、だいたい1回の開催の参加人数は15名前後です。最近では若い女性参加者も増えてとても活気に溢れています。

また、自分と同期の友達や先輩、後輩、はたまた親戚や縁故知人などの方々に声を掛けて、何人連れてきていただいても結構です。

4) 石井喬(第46期)

❖❖東京探訪の会❖❖

1) 故郷を離れ、長年慣れ親しんできた東京にも、意外に知らない面がたくさんあります。日常あまり触れることのない「東京」をいっしょに訪ねて、再発見してみませんか。

年2回、案内人を先頭に2時間ぐらいのコースを散策しています。

2) 設立は2007年6月。

[これまでに探訪した場所と案内人]

第1回 皇居東御苑(07年6月、吉田真由美46期)

第2回 王子界限(07年11月、袴田邦夫45期)

第3回 荻窪～善福寺川(08年4月、平野信任45期)

第4回 小石川植物園～本郷(08年11月、袴田亘51期)

第5回 芝公園～増上寺(09年4月、三浦洋45期)

3) 今回は2009年秋、谷根千(谷中・根津・千駄木)探訪の予定です。

参加者は毎回10人前後ですが、歴史、地形、植物、写真、俳句など、それぞれ興味の対象が違って、お互いに新しい発見がたくさんあります。

関心のある方は事務局まで連絡を。家族の参加も歓迎です。

4) 吉田真由美(第46期)



増上寺の桜の下で、東京タワーを背景に

MAYUMIGRACE

First Mini Album

SWEET & BITTER

オフコースの松尾氏やチューリップの宮城氏、そして、とんぼちゃんの伊藤氏が書き下ろした曲に乗せ、MAYUMIGRACE自身によるリリックはその歌声と共に高く評価されている。

『とどかない』は『女帝』などで有名な倉科遼の原作映画『十年愛』の主題歌にもなっている。

2008.12.3 Release DQC-184 ¥1,500

発売元：FACCESS RECORDS

<http://www.faccessrecords.com/mayumigrace/>



平成21年度(2009)収支決算報告書

(平成20年9月1日～平成21年7月31日)

★決算期の変更により今年度は11カ月の期間です。

収入の部			支出の部		
項目	予算	決算	項目	予算	決算
総会収入	766,000	675,000	総会費	1,120,000	995,516
会費収入	540,000	519,000	組織拡張費	105,000	97,820
雑収入	141,600	116,202	一般管理費	218,200	145,375
当期合計	1,447,600	1,310,202	当期合計	1,443,200	1,238,711
			当期収支	4,400	71,491
			預かり金	6,000	6,000
			未払い金	10,000	0
			前年度繰越金	1,087,152	1,087,152
			翌年度繰越金	1,107,552	1,148,643

★紙面の都合で簡易版を掲載しました。総会資料、東京同窓会ホームページでは詳細をご覧ください。

平成21年度年会費納入者(敬称略)

(2008年9月1日～2009年7月31日までに入金いただいた方)

【8期】星信勝【13期】勝永金一【15期】吉田信一【16期】金丸明【17期】工藤典夫【18期】愛沢鉄治、貝田正【19期】小林肇、千葉孝夫、五十嵐嘉久彌、吉方盛恭【20期】金谷芳郎、民谷慎一、小野喬【21期】五十嵐資和、小野茂【23期】矢口裕、清水良二【24期】山縣輝輔、畑江道弘、木村喜作、今村宏司、蓮沼旬、金子勝信、豊田誠、小山黎子、金丸正【25期】畠豊彦、佐々木胤麿、町田次男、工藤尊久、北嶋茂、栗原俊一、那須秋男【26期】八柳昭義、畠山信孝、板倉富彌、宮腰英彌、岩見尚夫【27期】檜森寛、大村真陸郎、後藤信義、若松正雄、高砂浩、山田邦夫、斎藤秀夫、栗原優子、石嶋喜直、川井芳敬、田中郁三【28期】石川輔宏、須田正巳、堀内盛、越後政明【29期】太田勝治、関根市男、宮腰興紀、石川正順、宮腰瑞夫、鈴木元紀、笹木広澄、中田龍一、赤塚鉄男、大高幸夫、糟谷愛、塚本祝永、嶋田雄右【30期】熊谷幸夫、田村正宏、今立駿、相沢節夫、藤田道義、武田茂、宮原卓、工藤トシ子、渡辺傑、宮腰七郎、宮腰忠、岩村光二【31期】馬場富男、大倉報三、熊谷博雄【32期】高田政勝、高谷誠、森喬夫【33期】工藤耕平【34期】庄内正、長岡忠光、西川廣正【35期】石山眞、横田真理子、干場革治、榊修、川添能夫、金子永喜、金谷満郎【36期】深井学、加藤和海、武田忠克、男鹿谷浩市、茂呂満【37期】小林雅夫、加茂谷純一、袴田大蔵、今野廣隆、加賀咲男、若狭秀巳【38期】豊嶋誠、金野正道、佐藤春香、岩谷憲一、佐藤則男、佐藤能雅、能登洋一【39期】大塚進、菅原涉、金野峻明、熊谷一美【40期】智田農、小林哲【41期】小河範也、鈴木幸男【42期】加藤正人【43期】福岡武、菊池忠夫、佐藤梯弘、渡辺博栄、近藤信雄、大塚和博、須藤正喜、近藤信雄、高橋敦子【44期】庄内俊憲、橋本周平【45期】三浦洋、袴田邦夫、大塚雄蔵、鎌田泰宏、真崎裕、高松武史、金谷哲、奈良博文、平野信任【46期】石井喬、吉田真由美、斉藤靖雄、平川尚、秋林泰樹【47期】和平忠幸、五十嵐和雄【48期】北林蒔子、野島美季子、香坂寿、淡路正則、竹内勉、安保伸一【49期】片谷浩之、松永京子、田村盛仁、大塚聡子【51期】袴田亘、河田康史、佐藤茂【53期】吉田順、梶原禎子【54期】佐藤篤規【55期】淡路和子、大山顕、棚橋はるひ【59期】棚橋さゆり【62期】大高忠勉【67期】小野立【75期】清水美花【77期】金谷怜、中川菜穂子、森田菜都美、鶴田裕里子【78期】今西拓磨、楊裕介

*年会費世帯制の適用者4組は二人の名前を掲載しました。

以上合計 179名

編集後記

●今年も会員の方をはじめ多くみなさまにご協力いただき、会報を発行することができました。誠にありがとうございました。ご感想など、はがきや封書、東京同窓会ホームページの掲示板、ブログ、事務局メールへお寄せいただければ、今後役に立てたいと思います。

●第18号にご登場いただいた安井信雄先生が平成20年11月26日に永眠されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
(会報誌委員会)

能代高校東京同窓会 会報 第19号

発行日 平成21年9月1日

発行 能代高校東京同窓会

発行責任者 太田勝治

編集 会報制作委員会

印刷 大森太田印刷有限公司

■能代高校東京同窓会事務局

〒143-0015 東京都大田区大森西 2-15-21

大森太田印刷有限公司社内

電話 03-3765-1779 FAX 03-3766-1228

郵便払込口座番号 00150-7-27459

加入者名 能代高校東京同窓会